



柏原収史 吉川ひなの 前田愛

中泉英雄 黒木メイサ 田口トモロヲ / 玉山鉄二 (友情出演)

阿部進之介 鈴木淳評 伊崎充則 金井勇太 たかだゆうこ

柳家小三治 / 本田博太郎



カミュなんて知らない

柳町光男監督最新作

2005年カンヌ国際映画祭監督週間出品 2005年ニューヨーク映画祭出品

脚本・監督：柳町光男 プロデューサー：清水一夫 撮影：藤澤順一 音楽：清水靖晃 照明：小野 晃

録音：山田 均 美術：斉藤岩男 編集：吉田 博 監督補：門奈克雄

製作補：澤木慶瑞 安西志麻 記録：石田芳子 助監督：東條政利 衣装：浜井貴子 ヘアメイク：小塚なな

特別協力：立教大学 後援：財団法人としま未来文化財団 協力：池袋シネマ振興会

製作：「カミュなんて知らない」製作委員会 プロダクション群狼+ワコー+Bugs film 配給：ワコー/グアバ・グアボ 

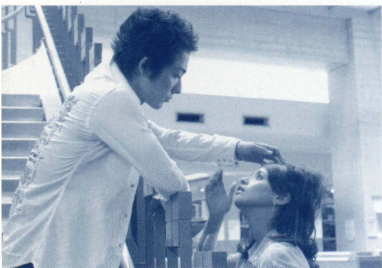
www.camusmovie.com



これはフィクションなのか現実なのか! 〈理由なき殺人時代〉のリアルって何?

「映画とあたし、 どっちが大事?」

都心の大学キャンパス。“映像ワークショップ”を受講する学生たちが、ごく平凡な高校生が犯した「不条理殺人」をテーマに、「タイクツな殺人者」と題された映画を製作することになった。クランクイン直前のただならぬ緊迫感の中、彼らが映画に注ぐ純粋な情熱はほとばしる若さのエネルギーとなって、恋と友情にとスリリングに交錯してゆく。そして、ついに取り返しのつかない出来事が! 青春の無軌道さと生真面目さを同居させた彼らが、愛と殺人(ラヴ&ヴァイオレンス)の向こうに見出したものは?



カンヌが! ニューヨークが! “鬼才・ヤナギマチ”の最新作

監督は『さらば愛しき大地』『火まつり』の柳町光男。2005年のカンヌ国際映画祭(監督週間)に出品され、満場の観客から4分間のスタンディングオベーションを浴びたのに続き、10月にはニューヨーク映画祭で正式上映、「カミュの小説に比肩して陰鬱を含みミステリアス」と世界



ためしてみたかった

「人殺しを経験してみたかった。人を殺したらどうなるか実験してみたかった」。2000年5月、愛知県豊川市で起きた老婆刺殺事件。犯人である男子高校生のこの証言は、アルベール・カミュの小説「異邦人」で“太陽が眩しかったから”殺人を

「金づちで殺される夢を見た!」(40歳代・女性) 「柳町マジックにひっかかりました」(20歳代・男性)

学生たちの映画製作というフィクションが、一瞬にして実際に起きた事件の生々しい現実と一体化する! 映像だからこそできるこの“映画の醍醐味”は、まさに「柳町マジック」の真骨頂。中でも、老婆刺殺事件へと至るクライマックスは圧巻で、その身も凍る迫真の殺人シーンは、

観る者に現実と虚構の狭間を衝撃的に突きつけるはずだ。この遊び心あふれる映画の魔術。これぞ“映画を超えた映画の誕生”といえよう。



「俳優たちの 驚異的なまでの輝き」

——米・ハリウッド・レポーター誌

池袋西口界隈を疾走する若さのエネルギー。出演は、監督の松川に『きょうのできごと』の柏原収史。松川の恋人ユカリに『TOKYO EYES』の吉川ひなの。助監督、久田に『バトルロワイヤルⅡ 鎮魂歌』の前田愛。物語の鍵を握る池田に『PAIN』の中泉英雄。そして、大学教授を魅了して翻弄するレイに、本作で映画デビューを飾った黒木メイサら、選りすぐりのキャストが丁々発止のアンサンブルを繰り広げるほか、彼らの指導教授で元映画監督の中條を演じる本田博太郎が、老いゆく男の悲哀を際立たせた名演で、若者たちを絶妙にサポートしているのも見逃せない。



で絶賛された鬼才の最新作である。映画製作の現場が舞台となっていることもあり、『アデルの恋の物語』『ベニスに死す』といった名作映画のパロディがたっぷり盛り込まれた「柳町ワールド」の新境地、ついに待望の日本公開!

カミュなんて知らない

www.camusmovie.com
camusmovie.livedoor.biz/

2006/日本/35mm/カラー/ヴィスタサイズ (1:1.85) /ドルビーSR/115分
©2006「カミュなんて知らない」製作委員会

06年 お正月 ロードショー

特別鑑賞券 一般券:¥1,400 学生券:¥1,200(税込) 絶賛発売中!

当日料金:一般¥1,700/学生¥1,400/シニア¥1,000(税込)

1月上旬に
引っ越します

ユーロスペース

渋谷・文化村前交差点左折
www.eurospace.co.jp